

【戸塚区】令和 8 年第 1 回区づくり推進横浜市議員会議 議事録

開催日時	令和 8 年 2 月 5 日 16 時 00 分 ～ 18 時 00 分
場 所	戸塚区総合庁舎 9 階特別会議室
出席者	<p>【座長】坂本勝司議員</p> <p>【議員：5 名】鈴木太郎議員、山浦英太議員、中島光徳議員 伏見幸枝議員、大和田あきお議員</p> <p>【戸塚区：32 名】近藤武区長、増田政博副区長、 緑川斉福祉保健センター長、安藤敦久福祉保健センター担当部長、 白井一彦土木事務所長、佐久間栄吉戸塚消防署長（災害対策担当部長） ほか関係職員</p>
議 題	・令和 8 年度個性ある区づくり推進費 戸塚区予算案
発言の 要 旨	<p>大和田議員：防災減災啓発の実施について、区内小学校にトイレパックを配付するのは非常に良い取組である。マンションなどでも発災時にトイレが使えなくなる問題があるため、家庭での備蓄啓発も必要である。</p> <p>また、児童虐待防止事業の専門学校との協働について、実際にどのような取組なのか。児童虐待は気付き難く、また、保護者によっては隠してしまうこともある。</p> <p>更に、脱炭素化の普及啓発は具体的にどのように展開していくのか。相談会やイベント以外に取組はあるのか。</p> <p>最後に、地域の方から南舞岡小学校廃校後の地域防災拠点について質問を受けた。地域の方の関心も高く、緊急時の避難場所として重要だという意見も出されたが、維持していくためにはどのような視点が必要か教えてほしい。</p> <p>石和田総務課長：トイレパックについて、備蓄の普及啓発ということで小学生へ配付するが、各家庭での備蓄にも繋げられるよう啓発に努める。</p>

南舞岡小学校地域防災拠点について、令和8年4月からは暫定的に地域防災拠点として利用するという話を進めている。長期的には、拠点として利用を継続するのか、区割りの見直しや移転をするのかも含め、地域の方の意向も踏まえながら検討していきたい。

舗こども家庭支援課長：児童虐待防止への理解は非常に大切と考えている。小さな子どもから若者も含め、幅広い世代を視野に入れながら啓発をしていきたい。専門学校の教職員や学生と一緒に、どのようにしたらより伝わるのかを検討し、それを児童虐待防止月間などで活用しながら啓発していきたい。

山内区政推進課長：脱炭素化の普及について、資料に記載されているもの以外の取組としては、3月1日に広く市民の方を招いて環境講演会を開催予定である。また、環境教育として、認定こども園の園児と一緒に環境について考える時間を取り、清掃活動も実施した。その他、CO₂の排出量がわかるツールを様々なイベントで活用するなど、脱炭素化の普及啓発について取り組んでおり、次年度も同様に行っていきたい。区内には戸塚区エココーディネーター協議会など、エコに関する普及啓発を担っていただける団体があるため、連携しながら取り組んでいく。

山浦議員：共同親権が4月から導入されるにあたり、こども青少年局から区役所で配付するリーフレットと職員向けの研修動画が完成したと聞いたが、区はどの程度把握しているか。

舗こども家庭支援課長：リーフレットは2月に区に配付されると聞いている。社会福祉職の職員でリーフレットの内容を確認し、勉強しながら対応していきたい。また、職員向け研修動画は、社会福祉職は全員受講済である。

山浦議員：リーフレットや研修動画があることで、区の職員が対応しやすくなり、人によって言う事が違うということも少なくなると思う。様々なケースを局の職員と共に学び、チームとして区民に寄り添った対応をしてほしい。

男女共同参画フォーラムに男性の相談員が配置された。今後も男性相談

員の増員のため、来年度に予算化される。男性だからこそその悩みについて、男女共同参画フォーラムや政策経営局だけが把握するのではなく、区役所の職員も一定の理解を深め、共有しながら対応してほしい。

尾崎福祉保健課長：区役所には男女共同参画センターのような男性専用の窓口はないが、性別問わず、問合せや相談を受けている。そして、内容に応じて男女共同参画センターを含めた関係団体と連携するなど対応している。丁寧に話を聞きながら男性の方はもちろん、女性の方も相談しやすい窓口になるように区役所として対応したい。

山浦議員：横浜市では年間 500 人から 600 人の自殺者がいるが、男性が女性の 2 倍である。また、中高年の引きこもりに関しても、2 万人いるが男性の方が多。男性相談員の対応も含め、職員の教育なども自殺や引きこもり対策に繋がる。局とも相談しながら進めてほしい。

見守り推進事業に関連して、民生委員を増やす取組をどのように行っているか教えてほしい。

尾崎福祉保健課長：民生委員は昨年 12 月 1 日付で 3 年に 1 度の改選を行った。定員は 347 人で以前よりも増えているが、地域から推薦をいただき、実際に委嘱させていただいた方は 324 人であり、なり手が不足している現状もある。負担軽減を図るとともに必要に応じて定年を超えた民生委員の人数を増やすなど、地域の方と相談しながら進めている。

山浦議員：健康福祉局の常任委員会でも伝えるが、特に若い方のなり手が少なく、また、長期間活動していた若い方が辞めてしまう傾向もある。継続して 5 年、10 年と活動されている方がそれぞれの理由で辞めてしまうのは非常にもったいない。謝礼金などのインセンティブも含めて対応を検討する必要がある。

尾崎福祉保健課長：民生委員の市全体の年齢構成は、65 歳以上 70 歳未満が 26%、70 歳以上 75 歳未満が 29%で、65 歳以上の方が全体の半数を占めており、30 代から 40 代のいわゆる若手の方はごく僅かである。民生委員は地域の中で重要な活動をしていただいている方であり、若い方も含め、積極的にできる限り長く地域に寄り添っていただければと思っている。負

担を軽減し、より長く活動していただけるよう、戸塚区だけでなく市全体で考えていきたい。

鈴木議員：脱炭素化については、日本全体でエネルギーの転換に重点が置かれるようになってきている。そのために再生可能エネルギーへの移行や、使用量の削減をしっかりと行う必要がある。教育委員会では市内学校の断熱改修やセンサー設置を実施するが、区としても、その意味や効果の啓発などで関わってほしい。例えば、東俣野特別支援学校では児童だけでなく卒業生や地域の方も参加し、断熱効果が高いと言われている内窓を取り付けるワークショップを3月に行う。

脱炭素に貢献する経験をしてもらうことで、児童にその意義を理解してほしい。区役所としてもそのサポートを考えてほしい。

山内区政推進課長：教育委員会や脱炭素・GREEN×EXPO推進局とも連携しながら前向きに考えていきたい。また、エネルギーの転換についても、昨年度の環境講演会では再生可能エネルギーについて取り上げており、大きなトピックに対して区でできることは何か、向き合いながら検討したい。

鈴木議員：区提案反映制度の戸塚センターのリノベーションについて、予算が少ない中で教育委員会と調整し、施設全体の機能強化をしていくこととなったが、あくまで図書館の改修であり、図書館の機能強化のために施設全体のスペースの有効活用をしていく、という根本的な部分を正しく理解し進めてほしい。地方自治体の図書館がキラコンテンツとなっている状況もある。様々な規模の図書館があるが、事例をしっかりと研究したうえで戸塚センターの改修にあたってほしい。

なお、1階エントランスや2階学習スペース、3階ホワイエの有効活用については共有されていると思うが、使っていない階段部分の開放や建物の外の敷地スペース、断熱処理など、出来ることは多い。そういった観点で臨んでほしい。

竹内地域振興課長：戸塚センターのリノベーションは、現在先行して進んでいる図書館リノベーションのコンセプト「本と出会い、人と出会い、戸塚の自然と歴史と活力が感じられる図書館」を複合施設全体で実現出来る

よう、根本を正しく理解しながらリノベーションを進めていきたい。人との交流が生まれるような場にするため、ハード面だけでなくソフト面でも、地域の方や有識者の意見をしっかり聞きながら、最近の事例も把握しながら進める。

鈴木議員：スポーツセンターについて、戸塚区は人口やスポーツ団体が多いにもかかわらず、スポーツ協会で行っている優先利用枠日数が他区と同じであるため、1日でも増やしてほしい。

竹内地域振興課長：スポーツセンター優先利用枠のご意見は聞いていて、にぎわいスポーツ文化局へは伝えている。市全体での調整もあるが、引き続き対応していきたい。

鈴木議員：優先利用枠の拡大は区の意向も重要となるのでしっかり対応してほしい。

戸塚駅東口など喫煙禁止地区の喫煙所の問題について、資源循環局が機能強化として鶴見駅と横浜駅で密閉型喫煙所の実証を行う。そこでは紙巻タバコと電子タバコの分煙化も公民連携で進めていくが、戸塚駅も導入してほしい。場所の確保も含め、検討状況を教えてほしい。

高橋資源循環局戸塚事務所長：令和9年度以降、既存の喫煙所のうち必要な箇所の密閉化を図っていく予定。個々のスケジュールは資源循環局で検討しているが、戸塚駅東口の喫煙所については、令和8年度以降にペDESTリアンデッキの補修工事があることから、喫煙所自体を撤収する必要がある。現状では適地は見つかっていないが、喫煙所整備については道路局や都市整備局も入った部長級のプロジェクトが発足しており、候補地の洗い出しが行われていく。非喫煙者にも配慮しながら適切な場所を選定したい。

鈴木議員：東戸塚駅西口は喫煙禁止地区ではないが、民間が大規模な喫煙場所を設置してくれている。本来は補助金対象とし、密閉型にするべきである。東戸塚駅西口を喫煙禁止地区にすることで補助対象とする、もしくは、喫煙禁止地区ではなくても区からの推薦で補助対象にするなど検討してほしい。

都市計画マスタープラン区版は、全市版に沿って行うという印象が強く、区の主体性を感じない。市内の特に南西部では農地の問題がある。横浜は都市部でありながら緑豊かな環境があるというイメージだが、緑を維持するのはあくまで所有者であり、それが困難な場合もある。区内では大正地区だけでなく東戸塚地区も同様に、川上地区など駅から近いところの市街化調整区域に山があるが、所有者は維持に苦労している。また、平戸の果樹園では急傾斜地を抱え、担い手が1人しかいない中で、緑を維持するために費用面も含め苦労している。難しいことは承知しているが、そこを踏み込んでどう対処していくのか。

山内区政推進課長：区プランの改定は令和8年度から3か年かけて行う予定で、現時点で具体的な内容は示されていない。検討段階では、地域の方の意見を聴く場面もあり、区としてもしっかり受け止めていく。また、区プランは地域別の方針や地区別計画があるが、主体性を持って局とも相談をしながら進めていく。

鈴木議員：壁につき当たらないとダメだと思っている。都市計画マスタープランは、建築局の都市計画課が素案を作成するが、農地についてはみどり環境局が所管であることから予め外している。みどり環境局は緑の維持が困難な所有者が多くいることは把握しているが、農業振興を所管する立場としては農地を減らすことはできないという矛盾がある。その次に線引きの課題がある。実質的に市街化調整区域でも市街化して見える区域は市街化区域に変更されるところがあるが、市街化区域のように見えない区域は、農業の有無に関わらず市街化調整区域のままとなっている現状があり、これが緑地や農園の所有者にとって課題である。特に東戸塚周辺は考えてほしい。

最後に2点、マンション防災ガイドブックの作成では区役所の担当者が一生懸命頑張ってくれたと防災関連の団体から聞いている。

東急プラザデッキの閉鎖している階段について、GREEN×EXPO 2027 機運醸成のためにも開放し、通行できるようにしてほしい。また、横断幕が汚れている状況もある。

森土木事務所副所長：デッキについては階段形状にできるかを道路局の予算で検討をした。形状的に階段することは可能だが、人を歩かせる際の荷

重に耐えうるのか更に検討が必要であり、その結果で判断していく。

白井土木事務所長：デッキの階段に掲げているGREEN×EXPO2027横断幕だが、今年度、新しいきれいなものに付け替えた。

中島議員：「マンション防災ガイドブック」については、QRコードなど様々な工夫がされていて非常に良いものが出来た。マンション防災は区の防災を進める上で大事な核となる。前回会議で提案した、初級・中級・上級など、ステップアップの行程の見える化についてはどうか。

石和田総務課長：ガイドブックはマンションの管理組合等に郵送済だが、各マンションの取組状況をQRコードから電子申請で回答してもらう仕組みにしている。その回答結果から各マンションのステップアップの状況を把握していきたい。

中島議員：戸塚のマンション防災の取組の進捗が分かるようにしてほしい。現状をステップごとに把握出来れば、前向きに進めていけると思う。
発災時の水の確保について、区内の災害用井戸を把握しているか。

石和田総務課長：約210か所あると認識している。

中島議員：来年度から井戸の修繕も可能な助成事業が始まる。医療局が各井戸の状況を把握しているので、区局が連携しながらこの210か所が実際に使えるものになるようフォローをしてほしい。発災時の水の確保は非常に重要であることから、使用可能な井戸がどこに、どのような形であるのかを地図にするなど、いざという時に使えるような仕組みを作ってほしい。

石和田総務課長：実際に使用するのは区民がメインになると思うので正しく把握し、活用の際には、どこに井戸があるのかなどが分かるようにしていきたい。また、故障や破損の状況は医療局が積極的に調査したと聞いているが、全てが使用不能ではないとのこと。それぞれの補修状況なども確認しながら区民への情報提供に努めたい。

中島議員：来年度、停電時の医療機器の電源確保に関する予算がついた。戸塚では過去に東俣野で大規模停電が発生した際、スムーズな電源確保が出来なかったことも関連して、人が亡くなった事例があった。それ以降、緊急措置として各地区センターに発電機を配備しているが、活用状況はどうか。

石和田総務課長：各地区センターの発電機が使用可能な状態であることは確認し、ボンベも補充をしているが、実際には活用はされていない。

中島議員：緊急の時、本当に必要な方に優先的に貸出が出来る状況や、地区センターに発電機があり、貸出可能であることを地域の方にしっかり伝えることが重要である。優先度は下がるが携帯電話の充電などにも使えるので、地区センターと調整しながら進めてほしい。

また、歴史を生かしたまちづくり事業について、動画を作成し、小学校等のイベントで使用して行く取組は重要だが、それだけではなく、地域の歴史的なものを保存していく取組も必要である。実際に区内で新しく歴史的なものが出てきた場合、受け入れる窓口として図書館があるが、現在の状況を教えてほしい。

神内戸塚図書館長：戸塚図書館では、地域のご家庭で眠っている貴重な書物をぜひご寄贈くださいと区民に呼びかけている。図書館リノベーションでは、戸塚の歴史も1つのテーマとしても取り上げている。郷土資料の収集も積極的に行い、効果的な展示でより多くの区民の眼に触れるよう展開していきたい。

中島議員：柏尾小学校をはじめ、地域の学校でも歴史的な素晴らしいものを保管している。そういった歴史や風土を残していく環境づくりは非常に大事だと思っている。柏尾小学校を参考にしながら、図書館で受け入れた事例をオープンにするなど、ニュース性を持たせ普及していく仕組みづくりをしてほしい。

次に、待たない区役所や高齢者にも分かり易い市民サービスとして、お悔やみ窓口がスタートしたが、現在の状況はどうか。

石和田総務課長：適宜予約が入っていて、比較的利用されていると認識し

ている。

中島議員：区の各部署は大変だと思うが、実際の利用者からは、説明が丁寧で、必要な書類が事前に準備されているなど、好評の声が届いている。また、他区のように通路の一角ではなく、きちんと部屋が用意されていることも喜ばれている。DXを進めていくと最終的には1つの窓口で全ての手続きが出来るようになると思うが、そのための課題やヒントがお悔やみ窓口から見えてくると思う。ただの窓口として終わらせるのではなく、そういった観点で位置付けてほしい。

石和田総務課長：DXの先駆けとして、お悔やみ窓口で書類等の作成や手続きが一義的にできるということで、利便性を感じていただけることを嬉しく思う。今後、総務局や市民局を中心に窓口のDX化が進んでいくが、現場の声や課題も伝えながら区民の利便性が一層高まるよう、局と連携しながら取り組みたい。

中島議員：東戸塚駅東口ロータリーの一般車とタクシーのレーン適正化について、進捗状況を教えてほしい。

山内区政推進課長：タクシーと一般車レーンの1日の利用状況を分析した結果、平日朝7時から夜21時頃まで、平均して一般車両台数がタクシーの4倍以上あることが分かった。タクシーの利用が最も多くなると思われる金曜日の夜21時頃から終電以降の翌1時まではタクシーの利用量が増えることで供給が追い付かず、タクシーがレーンで待機するほどの状況にならないことがわかっている。この状況を踏まえて土木事務所とも協力しながら関係機関との協議を進めている。

中島議員：土木事務所としてレーンの改善を来年度には実施してほしい。

白井土木事務所長：道路局に予算要求し、しっかりと取り組んでいきたい。

伏見議員：防災や安心安全なまちづくりに関連して、青少年指導員や消防団、高校生などに心肺蘇生法等、様々な指導をし、環境づくりに取り組んでいる。その中でも消防団と消防士の顔の見える関係の構築が重要と思う

が、区の考えを教えてください。

佐久間戸塚消防署長：去年から消防団との連携訓練を進めており、2月にも長距離延長ホースの訓練を実施した。また、藤沢市や栄区など隣接する区域との連携訓練も取り組んでいる。

常駐している消防隊員と消防団との顔の見える関係を大切に、現場でしっかり繋がるよう取り組みたい。

伏見議員：市境や区境など隣接する区域との繋がりも重要なので、引き続き検討してほしい。

次に、歯と口・食育・禁煙啓発事業が拡充となっているが、これまで世界禁煙デーなど健康習慣として取り組んできた中で、今回の具体的な拡充内容を教えてください。

尾崎福祉保健課長：歯と口・食育・禁煙啓発事業として「わくわく健康フェア」というイベントを開催予定だが、今年度、試行実施をしており、来年度は実質的に2回目となる。

今年度は「世界禁煙デー」（5月下旬）、「歯と口の健康週間」（6月上旬）、「食育月間」（6月）と時期の近いものが3つあったことから、これらの啓発を一体的に行うことで参加者の生活習慣の改善につなげるイベントを行った。来年度も基本的には同様だが、測定機器の充実や保健活動推進員の「しながら体操」を取り入れるなど、今年度以上に内容が充実するよう、歯科医師会や薬剤師会、保健活動推進員などと具体的に調整をしていく。また、今年度は親子世代の参加者が少ないという課題があったため、そういった方々に参加していただけるような内容も検討したい。

伏見議員：測定機器はどのようなものがあるのか。

尾崎福祉保健課長：血管年齢測定器や野菜の摂取量を測定する機器などがある。

伏見議員：血管年齢測定器は人によっては測れない場合がある。より精度の高い最新のものがあるか調査し、導入してほしい。

尾崎福祉保健課長：より良い機器があるかも含めて確認したい。

伏見議員：子育てに関連し、今年4月からRSウイルスワクチンの接種が始まる。周知については、母子手帳をお渡しするときにお知らせする方法が考えられるが、区としての検討状況を教えてほしい。

舗こども家庭支援課長：予防接種券は母子健康手帳の別冊として、それぞれの年齢の接種時期に合わせて送付しているため、母子健康手帳としてお渡しする冊子には含まれていない。

予防接種の所管である福祉保健課を通じて周知用のチラシが配付されることになると思う。現時点で届いていないが、母子健康手帳の交付時にチラシを活用しながら周知を図りたい。

尾崎福祉保健課長：局からの情報では、定期接種化にあたっては、4月以降、対象者に母子健康手帳をお渡しする際に案内したいと考えている。既に母子健康手帳をお渡ししている方には医療機関が健診等の機会を通じて周知チラシの案内を行い、また、パマトコから通知を出すなど、何らかの形で滞りなく情報が届くようにしていく。

伏見議員：今後RSウイルスワクチンは妊婦さんも接種するようになると思う。情報発信を適切に行ってほしい。

舗こども家庭支援課長：所管局と調整しながら情報提供していく。

伏見議員：ウナシー普及啓発については、着ぐるみの貸出等もあるが、グッズの必要性も感じている。権利の問題もあり難しいと思うが、現状では販売等も行っていないことも含め、どのように考えているか。

竹内地域振興課長：ウナシーグッズに関して、デザイン等をデザイナーへ確認したうえで、イベント等で無償配付することは問題ない。ただし、商品として販売する場合は、目的に応じて一定のロイヤリティが発生する。以前、商店街等でマグカップや手ぬぐいを作成した経緯はあるが、その後続かなかったのはロイヤリティの部分での課題があると感じている。

伏見議員：缶バッチなど子供達に付けてもらえるような物を配付できると良い。予算の問題もあると思うが、無償で配付できるようアイデアを出していきたい。

また、廃食油回収については、イベント等での一時的なものか。区内で常時回収を行っているところがあれば教えてほしい。

山内区政推進課長：廃食油回収は常時ではなく、年3回程度実施し、区民からの問い合わせも増えている状況である。店舗等での常時回収先は最新の情報を得ていないため、把握をする。

伏見議員：民間の常時回収先がわかるのであれば、資料でいただきたい。廃食油回収は関心が高く、協力してくださる方も多いので工夫しながら実施してほしい。

鈴木議員：泉区で民間事業者が大きく実施しているところもある。連携しても良いのではないか。

伏見議員：トツカーナ地下1階の東急ストア前エスカレーターについて、特に夕方など込み合っているが、歩きながら乗る人もいて危険に感じる。注意喚起の表示はあるものの区としても発信してほしい。また、区内の他のエスカレーターでも同様の傾向があるため、商店街も含め区全体で連携出来ると良い。

山内区政推進課長：トツカーナに関しての言及になるが、トツカーナの管理組合と所管である都市整備局と定期的なやり取りがあると聞いているので、適正利用について何かできることがあるか投げかけてもらう。また、区役所としても日頃からトツカーナとも関係があるので、区局両面から適正な利用を促す仕掛けを考えられないかという話をしていく。

大和田議員：これまで進捗がなかった下倉田の通学路の狭く危険な箇所の拡幅について、ようやく地権者と合意したと聞いた。いつ頃拡幅されるのか教えてほしい。

森土木事務所副所長：先週中頃に豊田小学校の校長も含め、地域の方に進

歩を報告した。歩道拡幅に係る地権者の方々と事業に対する合意が取れ、令和8年度及び9年度で用地買収をし、10年度に歩道整備を完成させたい。ただし、あくまで事業へ協力していただけるという調整が進んだという状態であり、用地協力の契約は済んでいないため、他の地域の方への伝え方には留意いただきたい旨をお伝えした。区としても緊急性は高いと考えているので極力前倒しで完成できるよう取り組みたい。

大和田議員：完成までの間の安全対策も強化してほしい。

坂本議員：ウナシーについて、例えばGREEN×EXPO2027バージョンとして花で飾ったデザインを作成するなど、積極的に活用してほしい。万博に関わることなのでデザイナーも含めて前向きに検討してほしい。

GREEN×EXPO2027の関係では、10月頃から区内小学校や特別支援学校も含めてパンジーやチューリップなどを育ててもらい、その花を会場に植えるなど、関わりを持ってもらう動きがようやく出てきたと感じる。健康福祉局や総務局に対して、もっと障害者の方達を含めてGREEN×EXPO2027に関わってもらい、心に残るような取組をぜひ進めて欲しいと話しているが、あまり進んでいない。区からも伝えてほしい。

山内区政推進課長：保育園や小学校へ出向いてGREEN×EXPO2027に関する話や作品作りをしていただく中で徐々に関係性も出来てきている。障害者の方々はこれからという状況だが、より多くの方に参加していただけるような来場動機や期待感の醸成など、区としても課題感を持ってしっかり行いたい。

坂本議員：子ども達の心に残るような関わりが出来れば、来場者数も増えてくると思う。開催地である横浜市民により多く足を運んでもらうためのきっかけづくりが必要である。

区提案反映制度について、一部対応となっている項目が多い。優先度を付けながら進んでいることがわかるようにしてほしい。

山内区政推進課長：様々な状況がある中で制度の仕組み自体を検討している。予算を局で確保するのは難しいが、方向性については受け止めてもらっている。そういった趣旨のものが一部対応になっていると理解してい

る。区として出来ることを引き続きしっかり行っていきたい。

坂本議員：東戸塚駅の安全対策はJRが企業努力として行っているが、ホームドアの設置について、乗降客10万人以上の駅を優先的に行うと話していた。しかしそれを超える乗降客を有する戸塚駅や東戸塚駅がまだ手つかずの状態である。技術的な問題があるとは聞いているが、命に直結するため、しっかりと前進するように調整してほしい。

また、柏尾川桜並木保全・再生事業で設置したベンチはコンクリート製なのか。

森土木事務所副所長：ベンチ周辺はコンクリート構造物だがベンチ自体はコンクリートではない。まだ工事中のため開放はしていないが、例えば、中外製薬の前のあたりは高齢者が座りやすい高さになるように工夫している。実際に座っていただき、感想がほしい。

坂本議員：あの周辺はスケートボードで遊ぶ方が多いため、安全対策やベンチの保全が必要になる。せっかく整備したベンチが傷だらけにならないよう、土木事務所も検討してほしい。

災害時医療のぼり旗掲出訓練について、旗の色が赤地に黒文字になっているが目立たないように感じる。

尾崎福祉保健課長：重症の方を診る病院が赤色、中等症の方は黄色など、旗の色は決まっている。ただし、文字の色まで配慮ができてない部分もあったと思うので健康福祉局へ伝える。

坂本議員：せっかく旗を作るのであれば、例えば黒文字に白枠をつけるなど、目立つような工夫をしてほしい。

特殊詐欺について、昨年も非常に多かったと認識している。直近の状況を教えてほしい。

竹内地域振興課長：令和7年12月の被害状況だが、市全体では1039件、約66億3200万円の被害があった。その中で、戸塚区は89件、18区中3番目に多く、被害額は4億6600万円で18区中6番目である。国全体でも昨年度に比べて多くなっている状況である。

	<p>坂本議員：我々もしっかりとPRする必要がある。これに関する情報や媒体があれば議員にも提供してほしい。警察とも連携し、公式Xでリツイートする方法もあるので積極的に発信してほしい。</p>
備 考	